

第47号 華山会報

令和3年11月11日
公益財団法人華山会

優秀賞

華山会報

少年物語 渡辺崋山を読んで

中山小学校 六年 清 田 莉 音

私はこの本を読むまで、渡辺崋山先生のこととは名前を聞いたことがあるだけの人でした。こんなにも一生けん命生きた人、人のために苦ろうした人ははじめて知りました。田原で最後の時を過ごした事を知りとても身近に感じ、私が小さなころに母が散歩で池ノ原公園に連れていってくれたことを思い出しました。渡辺崋山先生が晩年を暮らした屋敷跡を見に行きました。何も知らない私は、その時何も感じなかったけれど、今はとてもむねが熱くなります。あの屋敷で自らの命を絶てしまったなんて。蜜社の獄の内容を読んでとてもくやしい気持ちになりました。世の中には人をねたましく思うのはつきものです。でも罪をおかしていないのに、牢屋に七ヶ月も入り、皮ふ病にもなり、おなかの具合も悪くなってしまうました。死刑にはならなかったけれど、田原で、ちっ居といい、罪人として家にとじこもってつつしむことになり、田原へ移動する時に寒さやすい弱のため、とうとう気ぜつしてしまいました。東京から運ぶ方も、かごにのっている崋山先生も八日間の移動は、すごく大変だったと思います。気ぜつするほどの苦しみは、とてもかわいそうに思えました。

公益財団法人

崋山会では、郷

土の偉人渡辺崋

山先生の功績を

後世に伝承する

事業の一環とし

て、毎年市内小

学六年生に対し、「少年物語 渡辺崋山」の冊子

をプレゼントしてまいりました。感想文の募集

を行ったところ、三十七点の応募をいただき最

終選考において選ばれた二五点の中から優秀賞

五点と囀鳴協議会長賞一点の作品をご紹介します

いただきます。

応募いただきました学童の皆さんやご協力を

いただきました各学校の先生方に厚くお礼申し

上げます。

公益財団法人崋山会事務局



田原に来てから崋山先生は、絵を書いてくらししました。母と妻と子どもとくらせた日々は、少しでも落ちつけ、笑顔だった日はあったのでしょうか。罪人という立場で苦しい日々だったと思うと、あの時代の町奉行という仕事をしていた人にたいして、もっとしっかり考えてほしかったし、本当に悪いことをしたのかとぎ問に思います。

崋山先生のおかげで町の人たちが救われた話で、心に残っているところは、報民倉といってお倉をたてた話です。百姓があるからこそ殿様があるので、殿様があるから百姓があるのではありません。という考えを読んで、農民をととても大切に思っているすばらしい人だと思いました。田原藩では崋山先生のおかげで、お米にこまることはなかったそうです。今でも、倉のある家を見ます。頑丈な倉は大事な物が入っており、テレビでは、お宝発見シーンも見ます。報倉民で役に立ち、人々の家にも倉をたてるようになったのでしょうか。崋山先生の教えが今も受けつがれて見れること、また田原城跡、田原市博物館にも崋山先生の関係資料や、数々の文化財や史跡があるので、今まであまり興味はなかったけれど、見に行きたいと思います。崋山先生と田原藩の歴史をしっかり学びたいです。こんな立派な人が田原にいたことをとてもほこりに思います。これから辛いことがあっても、崋山先生を思い出し、努力したいです。崋山先生のように人が困っている時には、自分のことのように同情し、自分に対するうわさや悪口については平気でいられるように強くなりたいです。日省課目のようにはいきませんが、私も早起きして一日を力いっぱい過ごせるようになりたいと強く思いました。